

平成29年度
教育委員会活動の点検・評価報告書

知名町教育委員会
平成30年9月

I 点検・評価の概要

1. はじめに

平成19年6月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、すべての教育委員会が「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価」を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に報告するとともに、地域住民に対して公表するように義務づけられた。また、その実施にあたっては、学識経験者の知見を活用するよう義務づけられている。

2. 点検評価の実施について

この点検評価は、教育委員の会議による審議状況や教育委員による調査活動と教育委員会の事務事業の執行状況について、実績や成果と課題を記述し、次に示す4区分により達成度の評価を行った。

点 数	内 容
4	順調に達成しているもの
3	おおむね順調に達成しているもの
2	達成見込みがあるが課題があるもの
1	順調でないもの

3. 知名町教育委員会の取組方針

今回で10回目となり、前回平成28年度の点検・評価を踏まえ、同様に評価項目を4段階での数値評価とした。前回は社会教育関係と図書館・公民館関係の3項目とし、今回の評価項目は、教育委員会関係と学校教育関係、学校給食センター関係について、教育長及び教育委員4名による自己点検、自己評価を実施し、評価委員の意見をいただき集約したものを本報告書にまとめ、平成30年9月の第3回議会定例会で報告することとした。

(1) 教育委員会関係では、評価項目を「①教育委員会の会議の運営」「②委員の研修等」「③委員の活動等」の3項目とし、点検評価を行った。

教育委員会の年間をとおした会議、研修、委員活動について、各項目ごとに教育長、主管課長により配付資料等も含め説明、その後の質疑をもとに4段階の数値による評価と記述による意見をまとめた。

(2) 学校教育関係では、評価項目を「①確かな学力の定着・向上」「②心身の調和のとれた児童生徒の育成」「③特色ある開かれた学校づくり」の3項目とし、点検評価を行った。

各学校の学力の定着・向上対策、具体的実践内容などについて、教育長、課長が関係資料により説明、その後の質疑をもとに同様の数値による評価と記述による意見をまとめた。

(3) 知名町立学校給食センター関係では、評価項目を「①栄養のバランスのとれた豊かな学校給食」「②望ましい食習慣を形成する学校給食」「③食物アレルギー対応給食の実施」「④安全な給食の提供」「⑤給食を通じての学校・家庭及び地域との連携」の5項目とし点検評価を行い、同様の数値による評価と記述による意見をまとめた。

教育行政評価委員

役 職 等	氏 名
元 教 員	沖 野 富 秀
元町職員	中 瀬 みどり

II 知名町教育委員会自己点検・評価結果

1 教育委員会関係

評価項目	評価の観点	評価
① 教育委員会の会議の運営	1 定例会、臨時会の会議は適切に開催されたか。 (回数、時期、日程、議事等) (反省・意見)	3.6
	○定例会は毎月1回(原則午前10時開会)実施された。 ○時期、日程等も行事・出張等の調整を図り定例会の中で話し合っ て決めている。	
	2 資料の事前配布等が適切にされたか。 (反省・意見)	4.0
	○会議録については事前配付がされ、ゆっくり目を通すことができた。 ○議案についても関係資料をできるだけ事前配付し、調査・研究して 審議に臨むよう努めたい。	
	3 議案(報告)等の審議は適切な意見交換がされ、十分審議され たか。 (反省・意見)	3.6
	○議事の審議は十分に時間をかけてされ、必要に応じて時間延長に よる審議が行われた。	
4 必要に応じて、報告・連絡・相談及び事前勉強会や相互研修等 がされたか。 (反省・意見)	3.0	
○教育長の教育行政報告は毎月適切にされており、また、各委員も 学校訪問・行事等への参加を通して状況把握に努め、報告等もされて いる。 ○学校現場における些細な事案についても報告・連絡・相談により 情報共有を図る必要がある。		
5 委員の意見・提案は施策に反映されたか。 (反省・意見)	3.0	
○個別の施策についても意見交換が行われ、施策に反映されるよう 進められているが、提案された施策の反映状況等についての報告が 行われ、次の提案につなげていけるような工夫が必要がある。		
6 会議の公開、広報等は適切にされたか。 (反省・意見)	3.2	
○会議の公開、広報等については、十分とはいえない。広報ちな又 はホームページを活用して日程を知らせたりするなど工夫が必要 である。 ○会議録については、原則公開で臨んでいる。		

② 委員の研修等	1 県、地区、町等の研修への参加が適切にされたか。 ----- (反省・意見) ○県・地区の総会・研修会には全員が参加し、当面する課題や今後の方向性等について研修することができた。	3.6
	2 当面する課題に対する研修が適切にされたか。 ----- (反省・意見) ○課題に対する研修の機会はなかったが、委員各々が得た情報等について委員相互による意見交換を行い現状把握・共通理解を図った。 ○日頃から、委員自ら課題等を見つけ、その解決のため研修する機会を設けていくことも必要である。	2.9
③ 委員の活動等	1 教育委員会主催行事、学校行事、各種団体主催行事等への出席は適切にされたか。 ----- (反省・意見) ○全員が教委主催行事や学校行事には出席できている。各種団体行事には都合のつく限り出席するようにしている。 ○ほとんどの行事に参加することができた。	3.6
	2 各種行事等に対する改善点について、委員の意見・提案がされ、改善等に反映されたか。 ----- (反省・意見) ○定例会で行事に参加しての感想や意見を出し合い、改善点については、校長会や教頭会などに反映させている。	3.4
	3 地域住民、町民等から相談、意見、情報等の提供がされ、適切な対応がされたか。 ----- (反省・意見) ○学校排水等について情報が寄せられているが、一部財政的・町の全体施策等の課題により抜本的な解決には至っていないものがある。 ○地域住民・町民等からの情報を得る工夫が必要である。	2.9
	4 教育委員と町長、社会教育委員、学校長との懇談会は適切になされたか。 ----- (反省・意見) ○議会の傍聴や学校訪問等で情報を得よう努めている。 ○町長が主催する総合教育会議については、会議が開催されていないため、意見交換の機会がなかった。 ○学校長との意見交換については、学校訪問の機会などになされているが、社会教育委員との定期的な懇談は課題となっている。	2.1

評価点： 4 = 大変よくできた 3 = おおむねよくできた 2 = やや不十分 1 = 不十分

2 学校教育関係

評価項目	評価の観点	評価
① 確かな学力の定着・向上	1 「授業充実の3ポイント」の徹底を図らせているか。 (特に「確かめ・見届け」) ----- (反省・意見) ○各学校ともに「主体的・対話的で深い学び」の授業実現に向けて研修を進めている。しかし、終末の「振り返り」の時間確保が課題であり、「確かめ・見届け」が十分になされていない。	3.1
	2 一人一研究授業の実践に努めさせているか。 ----- (反省・意見) ○どの学校も授業を中心とした研修を進めている。しかし、学校によって取組に差が見られる。様々な施策を前向きに考えて取り組んでいけるよう指導助言を続けていきたい。	3.1
	3 諸学力調査の結果を踏まえた指導法改善に努めさせ、自己学習力の育成に努めてさせているか。 ----- (反省・意見) ○中学校では、各学力調査を細かく分析し、共通理解を図りながら研修を進める姿勢が見られる。そのため、中学校では学力の向上が見られてきた。逆に小学校では、個に応じた指導を行っている。様々な形態で小学校も工夫しているが、自己学習力には家庭の協力が大きく、学力の個人差も大きい状態である。	3.0
	4 「家庭学習60・90運動」の推進を図っているか。 ----- (反省・意見) ○小・中学校の実態調査の結果から、60・90運動が定着している。家庭学習強調週間の取組や家庭と連携した生活リズムの確立により家庭学習の習慣化が図られつつある。見届け、継続の必要性がある。 ○中学校でSNSの使用時間を制限する取組を図っているが、家庭の教育力の向上が必要である。	2.3
	5 少人数指導や個に応じた指導の工夫が図られているか。 ----- (反省・意見) ○習熟度別指導、個に応じた補充的学習や発展的な学習の実践が進みつつあり、成果として学力向上につながっていると思われる。支援員の指導の効果も期待できる。 ○少人数学級の短所を補うための集合学習や交流学習が組織的・計画的に実施されることが大事である。	3.8
	6 中学校ブロックごとの小中連絡会の充実を図っているか。 ----- (反省・意見) ○相互の校内研究授業への参加や小学校だけの交流授業も新設されている。中学校英語教諭の小学校での授業等があり、活動は良い傾向にある。	3.2
	7 教育講演会や文化的行事など教育振興に努めさせているか。 ----- (反省・意見) ○町講演会は廃止し、PTA研究大会の中で講演会を実施している。文化的行事では全小学生を対象に「オペラ鑑賞」を実施した。	3.0

② 心身の調和のとれた児童生徒の育成	1 豊かな心を育む道德教育の充実に努めさせているか。 (豊かな体験活動、心のノートの活用) ----- (反省・意見) ○「特別な教科 道德」になり、各学校年間計画の作成や全教科を通じて道德教育を行う年間計画(別業)を作成した。議論する道德の授業に向けて、各学校取り組んでいる。	3.2
	2 心と心のひびき合う生徒指導の充実に努めさせているか。 (共汗と共感、花いっぱい運動) ----- (反省・意見) ○学校・学級園、一人一鉢運動の実践による花いっぱい運動、教師、子どもが共に汗する清掃、美化活動、ボランティア作業等の取組が良くなってきている。その成果は、花壇コンクールで評価しているが、まだ、学校間での取組に温度差が見られるようである。	3.2
	3 基本的生活習慣の確立のために具体的な実践に努めさせているか。(早寝、早起き、朝ご飯) ----- (反省・意見) ○一事徹底事項の設定が全校できており、あいさつ、返事、整理整頓、服装などで成果が見られる。継続実践してほしい。 ○むし歯の治療率が課題であることを町民に啓発を図るため、養護教諭がリーフレットを作成し、町民に配布する活動もあった。	3.6
	4 いじめ、暴力行為、不登校の早期発見と指導の充実に努めさせているか。 ----- (反省・意見) ○いじめ、暴力行為、不登校等の発生が見られないのは、生徒指導の成果と思われる。小中学校で、不登校傾向の児童生徒もおり、家庭と連携した取組の継続が必要である。 ○スクールソーシャルワーカーの活用を進めていく必要がある。	2.9
	5 読書の習慣化を図り、朝読書や年間一人50冊読書推進に努めさせているか。 ----- (反省・意見) ○小学校では一人50冊の目標を大きくクリアしている。中学校もほぼ目標冊数を達成していると思われる。ただし、個人差も大きく活字離れと思われる児童生徒も少なくない。テレビやスマホの視聴時間など、アウトメディアの取組も重要である。 ○各学校の読書会の活動も推進され、年々読書量の向上が図られている。	2.8
	6 家庭、地域、関係団体との連携を密にし、問題解決及び未然防止に努めさせているか。 ----- (反省・意見) ○長期休業中のPTA・警察等との連携による愛のパトロール、登下校の交通指導、校区内安全マップの見直し等が推進されている。 ○大きな事故もなく、スクールガードなどの加入数も増え、地域の協力も大きな成果をあげている。	3.4
	7 教科体育を中心に体力・運動能力の向上に努めさせているか。(一校一運動の推進) ----- (反省・意見) ○中学校の運動部活動等では、地区大会などで活躍する姿が見られるが、部活動の加入率も、少しずつ下がっている。 ○「チャレンジかごしま」など各学校で取り組んでいるが、運動の2極化もあり、肥満等の問題など課題もある。	3.2

	<p>8 保健指導の充実に努めさせているか。 (学校保健全体計画、健康相談、衛生管理、保健委員会等) (反省・意見)</p> <p>○学校保健安全計画の作成ができている。養護教諭研修会では、先生方が意欲的に参加し、内容も充実している。 ○法定健康診断以外にも眼科検診を毎年実施し、早期治療へ役立てていることは大変良いことである。</p>	3.9
	<p>9 安全指導の充実に努めさせているか。 (安全意識の高揚、事故防止、安全点検等) (反省・意見)</p> <p>○児童生徒の学校事故や校外での大きな事故の発生がないようであり、安全指導や安全点検等が適切だと思われる。 ○スクールガードの活用もよくなされ、登下校の状況もとても良好である。</p>	3.9
	<p>10 食育についての指導の充実に努めさせているか。 (食に関する全体計画、栄養教諭との連携、栽培活動の充実) (反省・意見)</p> <p>○年間計画の作成も全校できている。給食指導や家庭との協力もよくなされているが、栄養教諭の活用にはやや課題がある。また、残食の多い学級等もあり、食育の必要性が高まっている。</p>	3.3
③ 特色ある開かれた学校づくり	<p>1 学校や地域の個性を生かした活動の充実に努めさせているか。 (反省・意見)</p> <p>○手作り弁当遠足、海山川新聞の作成、緑の少年団、島唄、三味線、ジャガイモ・さとうきび栽培、米づくり、黒糖づくり等特色ある活動が多くみられる。</p>	3.7
	<p>2 学校評議員や地域人材を活用した活動や学校評価の充実に努めさせているか。 (反省・意見)</p> <p>○どの学校とも学校評議員の意見を取り入れながら、学校運営を進めている。地域人材は、島ムニ大会や運動会などの場で十分に活用している。</p>	3.2
	<p>3 幼小中高の連携の強化に努めさせているか。 (反省・意見)</p> <p>○幼小連携は、教育課程に位置付け、交流活動を中心に進められている。 ○小中一貫教育は、取組を改善しながら充実してきている。 ○小中高連携は、連絡会のみでなく、体験入学、文化祭、体育祭などの行事を、中学生が参加しやすい日にして、生徒が参加できる内容のものが増えている。 ○中高連携による島内実力テストを実施できたことは、大きな成果であるので、今後とも是非継続していただきたい。</p>	3.6

評価点： 4＝大変よくできた 3＝おおむねよくできた 2＝やや不十分 1＝不十分

3 知名町立学校給食センター

評価項目	重点目標	平成29年度の実績・成果と課題	評価																																				
<p>① 栄養のバランスのとれた豊かな学校給食</p>	<p>1 栄養バランスのとれた献立作成</p> <p>(目 標)</p> <p>文部科学省学校給食実施基準(H20.10.23改正)を満たす</p>	<p>(実 績)</p> <p>○文部科学省が学校給食実施基準に対する充足率</p> <p>(H29:単位%)</p> <table border="1" data-bbox="732 490 1182 1086"> <thead> <tr> <th></th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エネルギー</td> <td>107</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>タンパク質</td> <td>115</td> <td>111</td> </tr> <tr> <td>脂質</td> <td>96</td> <td>89</td> </tr> <tr> <td>カルシウム</td> <td>102</td> <td>93</td> </tr> <tr> <td>鉄</td> <td>113</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>ビタミンA</td> <td>150</td> <td>101</td> </tr> <tr> <td>ビタミンB1</td> <td>175</td> <td>178</td> </tr> <tr> <td>ビタミンB2</td> <td>165</td> <td>133</td> </tr> <tr> <td>ビタミンC</td> <td>158</td> <td>107</td> </tr> <tr> <td>食塩ナトリウム</td> <td>113</td> <td>114</td> </tr> <tr> <td>食物繊維</td> <td>107</td> <td>101</td> </tr> </tbody> </table> <p>(成 果)</p> <p>○文科省が制定する「学校給食摂取基準」をもとに、献立作成を行った。</p> <p>栄養価・食品構成基準を充足出来なかった項目が中学校で2項目あり、工夫、改善が必要である。</p> <p>○教科との関連や、食に関する指導の生きた教材として活用できるよう献立作成を行った。</p> <p>○年間計画に基づき、行事食、旬の地元食材等を献立に取り入れ、季節感を持たせた給食を提供できた。(地場産物の活用「知産知消」地産地消)</p> <p>○生産者グループ・あたらしゃ会との定例会に於いて、郷土の野菜等を取り入れる。</p> <p>○毎月8のつく日を「いい歯(8)の日」として歯によい食材や噛みごたえのあるメニューを取り入れて噛むことの大切さを意識づけている。</p> <p>(課 題)</p> <p>○摂取基準を満たし、且つ児童・生徒が楽しく残さず食べる献立の作成に努める。</p>		小学校	中学校	エネルギー	107	104	タンパク質	115	111	脂質	96	89	カルシウム	102	93	鉄	113	96	ビタミンA	150	101	ビタミンB1	175	178	ビタミンB2	165	133	ビタミンC	158	107	食塩ナトリウム	113	114	食物繊維	107	101	<p>3.5</p>
	小学校	中学校																																					
エネルギー	107	104																																					
タンパク質	115	111																																					
脂質	96	89																																					
カルシウム	102	93																																					
鉄	113	96																																					
ビタミンA	150	101																																					
ビタミンB1	175	178																																					
ビタミンB2	165	133																																					
ビタミンC	158	107																																					
食塩ナトリウム	113	114																																					
食物繊維	107	101																																					

	<p>2 調理員や野菜生産者の方々とのおふれあい給食の実施</p>	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○行事食、郷土料理、地場産物を使った料理を献立に取り入れた。 ○日本各地の郷土料理、世界の料理を取り入れた。 ○児童・生徒が生産したジャガイモを給食でも活用した。 ○和泊・与論3町とも与論のサメ・モズク、沖永良部のきくらげを使った「仲良し給食」を実施した。 <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○献立に変化を持たせることで、児童・生徒が学校給食を楽しみにしたり、興味関心を持ったりするようになった。 ○調理員や生産者と給食を食べたり話を聞いたりすることで、食への感謝する気持ちが強くなった。 ○地域の産物や郷土料理に興味を持つようになった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年々生産者の高齢化、若い生産者が少なく、地場産物の確保にも少なからず影響がある。 	<p>3.5</p>
	<p>3 セレクト給食を通し食品の特徴を知り選ぶ能力を養うとともに楽しみながら選ぶ給食の提供</p>	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎月19日の「食育の日」におけるセレクト給食、小学校・中学校卒業前のリクエスト給食を実施した。 <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○楽しく食事をすることで、人間関係が豊かになった。 ○学校給食や食への興味関心を高め、自分の健康を考えた選択が出来るようになった。 	<p>3.6</p>

<p>② 望ましい食習慣を形成する学校給食</p>	<p>1 食育指導を通じて、食べることの大切さを児童・生徒に伝え、日常生活に生かすことができる、能力や態度を育てる。</p> <p>(目 標)</p> <p>各クラスへ給食時間を利用して、年1回以上食育指導に入る。</p>	<p>(実 績)</p> <p>○7校の小・中学校へ給食週間及び給食時間を利用し、1回から2回の食育指導を行った。</p> <p>○学級活動や教科「家庭科」で食に関する指導を行った。</p> <p>(成 果)</p> <p>○栄養教諭の専門性を発揮し、給食を通じて食べることの大切さを児童・生徒に伝えた。</p>	<p>3.3</p>				
<p>③ 食物アレルギー対応給食の実施</p>	<p>1 食物アレルギー対応給食の実施に当たり、次の3点について確実に実施する。</p> <p>※アレルギー対応食の実施</p> <p>※保護者との連絡</p> <p>※学校との連絡</p>	<p>(実 績)</p> <p>○学校及び保護者との連携を密にし、適切な食物アレルギー対応食の実施ができた。</p> <p>○食物アレルギー対応給食の実施状況</p> <p style="padding-left: 40px;">10品目</p> <p style="padding-left: 40px;">対象児童・生徒</p> <table style="margin-left: 40px; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">小学校</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>5人</td> </tr> </table> <p>(成 果)</p> <p>○食物アレルギーを持つ子供たちに対して、学校及び保護者と連携し、一人一人の健康状態や個人差を把握しながら、できる限り個に応じた対応を行った。</p> <p>○ガイドラインに基づき学校との、アレルギー対応が一本化されている。</p>	小学校	9人	中学校	5人	<p>3.6</p>
小学校	9人						
中学校	5人						

④ 安全な給食の提供	<p>1 調理員に対し、食中毒防止の基礎的知識と、日常業務に直結した衛生管理研修の実施</p> <p>(目 標) ※全調理員に対し、衛生研修会を実施。</p>	<p>(実 績)</p> <p>○全調理員に対し、衛生研修を実施した。 (大島地区学校給食センター連絡協議会研修会) ※夏季職員衛生研修会 (センター職員のみ) (年 1 回) ※県衛生研修会 (職員出席) (年 1 回)</p> <p>(成 果)</p> <p>○食中毒の基礎知識研修により、主な食中毒と感染症の特徴、衛生管理の徹底を図る為の、衛生管理基準等の徹底について理解できた。 ○調理員の健康管理、手洗いの方法等、調理従事者としての、衛生管理の基本的事項について理解できた。</p>	3.9
	<p>2 食品及び調理場内の衛生管理の徹底</p> <p>(目 標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品検査年 2 回 ・水質検査 (毎日調理前後) ・清掃・消毒検査 (毎日) ・鼠、害虫等防除 (学期毎) ・調理場等環境衛生 ・ふき取り検査 毎月 (一般生細菌・大腸菌群・サルモネラ菌・黄色ブドウ球菌) 	<p>(実 績)</p> <p>○学校薬剤師による每学期 1 回の定期検査を実施した。 ○食品検査等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品検査 年 2 回 ・水質検査 毎日調理前後 ・清掃・消毒検査 毎日 ・鼠、害虫等防除 学期毎 ・調理場等環境衛生 毎日 ・ふき取り検査 毎月 (一般生細菌・大腸菌群・サルモネラ菌・黄色ブドウ球菌) <p>(成 果)</p> <p>○食品及び衛生検査の結果、いずれも基準値を満たしていた。 ○検査結果を、日々の衛生管理に活用するとともに、衛生管理基準を遵守し、食品及び調理場内の衛生管理を行った。</p> <p>(課 題)</p> <p>●昔ながらのウエットシステムの施設をドライ運用している。 近年、ノロウイルス・病原性 O157 等の食中毒が発生しており、学校給食において、一層の衛生管理の徹底を図る必要が生じている。</p>	3.9

	3 日常点検の実施	<p>(実 績)</p> <p>○日常点検を実施した。</p> <p>※個人別健康観察記録の実施 (毎日)</p> <p>○調理中のタイムスケジュールの実施 (毎日)</p> <p>(成 果)</p> <p>○調理員個人の、体調管理 (メンタル) ミーティング等、日常自身の状態を確認することで、お互いのケアが出来た。</p>	3.9
⑤ 給食を通じての学校・家庭及び地域との連携	1 給食試食会を通じて、給食の様子や献立について保護者に伝える。 (目 標) ※給食試食会の実施	<p>(実 績)</p> <p>○給食試食会の実施</p> <p>※小学校・中学校共に実施</p> <p>※新1年生のふれあい給食の実施</p> <p>(成 果)</p> <p>○保護者からのアンケートにより、給食の試食を通じて、学校での給食の様子や、献立内容及び食事の大切さについて、理解してもらうことができた。</p>	3.6
	2 食育 (給食) について、家庭へ情報提供を行う。 (目 標) 給食献立表の発刊 毎月1回 給食だよりの発刊 毎月1回	<p>(実 績)</p> <p>○給食献立表の発行 毎月 1回</p> <p>○給食だよりを発行した 毎月 1回</p> <p>(成 果)</p> <p>○食育 (給食) について、情報の提供を行った。 ホームページ等を通じて毎日の献立や食育に関する情報等も配信した。 (平成21年7月知名町立学校給食センターホームページ開設)</p>	3.6
	3 給食センター、学校及びPTAとの意見交換を行い、連携を深める。 (目 標) ※運営委員会の開催 (年2回) ※給食担当者会議の開催 (年2回)	<p>(実 績)</p> <p>○各会議を開催した。</p> <p>※運営委員会 2回</p> <p>※給食担当者会議 2回</p> <p>(成 果)</p> <p>○給食センターの情報を提供することができた。 今後、給食センター、学校及び保護者との意見交換の場を設け、より給食に対して、相互理解が図れるよう働きかけたい。</p>	3.6

Ⅲ 教育行政評価委員意見のまとめ

1 教育委員会関係について

(1) 教育委員会の会議の運営について

定例会、臨時会の開催が行事・出張等との調整を図り適切に実施されている。議案等についての資料を事前に配付し、事前研究をして会議に臨み、十分な意見交換ができるように努めていることは基本的な事であり、更に充実させていただきたい。

町教育委員会の施策等については、広報「ちな」やホームページを利用して積極的に、町内外に広報していただきたい。そして、開かれた教育委員会制度の確立に積極的に取り組み、教育行政に関心のある町民からの声や要望に対応できる様な態勢は確立しておく必要がある。また、「教育・文化の町」として、多くの町民に教育委員会の活動について、「どのような方法で関心を持たせていくか」が課せられた大きな課題である。

(2) 委員の研修等について

県市町村教育委員会連絡協議会総会・研修会と大島地区市町村教育委員会連絡協議会総会・研修会に全委員が出席して、当面する課題や教育改革の動向等について研修を深めている事は、職務遂行上から有効なことである。また、委員各々が得た情報等について、委員相互による意見交換が行われ、現状把握・共通理解が図られている。

(3) 委員の活動等について

教育委員の活動内容の主たるものは、毎月の定例教育委員会での議事や協議事項の審議及び報告等である。町教育委員会の重点施策への各学校の取り組み状況と成果を把握する場として、学校行事として実施されている入学式、卒業式、立志式等の儀式的行事、運動会、体育大会、記録大会等の体育的行事、学習発表会、文化祭等の文化的行事と多岐にわたる行事へ積極的に出席して児童生徒や教職員の活動を直に見て、後日感想、意見を出し合い改善に資している事はよいことである。また、教育委員としての立場上から、各種団体の主催する行事への案内も多いが、できるだけ都合をつけて出席している。町民や地域住民、保護者等からの要望、相談、意見等を収集して、改善・解決に向けて誠心誠意努力する事は大切な事である。今後とも、迅速な課題解決に取り組んでもらいたい。

教育委員がいろいろな催しなどの場で、町長、学校長、社会教育委員と言葉を交わす機会はあるかと思いますが、お互いに多忙な中でも時間、場所を設定して、教育関係の課題等について懇談をする事は意義深いと思いますので、定期的な開催実現に努めていただきたい。

2 学校教育関係について

(1) 確かな学力の定着・向上について

「主体的・対話的で深い学び」の授業実現に向けて研修が進められている。その目標達成のための取組として、各学校では「授業充実の3ポイント」の徹底、一人一研究授業の実践、学力調査の結果を踏まえた指導法改善、「家庭学習 60・90 運動」の推進、少人数指導や個に応じた指導の工夫、中学校ブロックでの研究授業の実践、文化的行事等が着実に進められている。こうした取組により、中学校では、各学力調査を細かく分析し、共通理解を図りながら研修が進められ、学力の向上が見られている。一方、小学校では、個に応じた指導が行われているが、自己学習力には家庭の協力が大きく、学力の個人差も大きい状態である。小・中学校の実態調査結果からは、「家庭学習 60・90 運動」が定着し、家庭学習強調週間の取組や家庭と連携した生活リズムの確立により、家庭学習の習慣化が図られつつあり成果が見られる。

鹿児島学習定着度調査結果から、教科や学年により低い通過率も見られるので更なる取組が必要であり、日々の授業改善や「かごしま学力向上支援 Web システム」の活用等で確かな学力の定着・向上が図られることを切に望みたい。

(2) 心身の調和のとれた児童生徒の育成

豊かな心を育む道德教育の充実として、全教科を通じて道德教育を行う年間計画を作成し、議論する道德の授業に向けた取組が行われている。一人一鉢運動の実践による花いっぱい運動、教師、子どもが共に汗する清掃、美化活動、ボランティア作業等の取組が良くなってきている。また、基本的な生活習慣の確立のための一事徹底事項の設定ができており、あいさつ、返事、整理整頓、服装などで成果が見られるので継続実践していただきたい。朝読書や年間一人 50 冊読書の推進、長期休業中の警察等との連携による愛のパトロール、登下校の交通指導、校区内安全マップの見直し等が推進され健全育成に成果が見られている。なお、いじめ、暴力行為、不登校等の発生が見られないのは、生徒指導の成果と思われるが、不登校傾向の児童生徒もいるので、家庭と連携した取組の継続が必要である。

中学校の運動部活動等では、地区大会などで活躍する姿が見られるが、部活動の加入率も、少しずつ下がっている。「チャレンジかごしま」など各学校で取り組んでいるが、肥満等の問題など課題もある。学校保健全体計画による保健指導、安全指導が適切になされており命にかかわるような事故も無く、子どもたちが安心して学校生活を楽しく過ごしている事は評価に値する。

食育についての指導も計画的に進められており、家庭との協力もよくなされているが、残食の多い学級等もあることから、家庭との連携を図り改善に向けて取り組んでいただきたい。

(3) 特色ある学校づくりについて

学校や地域の個性を生かした活動が進められ、地域特性としてどの学校でも郷土芸能の伝承に努めていることは素晴らしいことである。学校で、島唄・三味線等を指導して、その成果を学習発表会・文化祭・島唄島ムニ大会等で発表して保護者や多くの町民から好評を博している。

また、子どもによる「海山川新聞」の作成、教育機器を活用した学習活動や地域の特性を活かしたジャガイモ・サトウキビ栽培、米づくり、黒糖づくり等の体験活動も評価に値する。さらには、緑の少年団、空き缶拾い、ボランティア活動等の素晴らしい活動も継続していただきたい。しかしながら、今なお道路には菓子袋や空き缶等が落ちているのが目に付くので、ポイ捨てはしないように子ども大人共に、意識化して環境美化の面からも町全体で取り組む必要がある。

3 町立学校給食センター関係について

(1) 栄養のバランスのとれた豊かな学校給食について

栄養のバランスのとれた豊かな学校給食にするために、文部科学省学校給食実施基準をもとに栄養のバランスのとれた献立により、ほとんどの項目で基準を満たしているが、中学校で2項目充足できなかった項目があり、工夫、改善に取り組むこととしている。また、行事食、郷土料理、地場産物を使った料理を献立に取り入れたり、児童・生徒が栽培したジャガイモを活用することにより、地域の産物や郷土料理に興味をもたせるような工夫や、毎月19日の「食育の日」におけるセレクト給食を通して食品の特徴を知り選ぶ能力を養う取り組みなどが行われている。

小・中学校の9年間の給食は、児童生徒の成長の重要な部分を担っており、安全・安心で魅力的な学校給食提供の取り組みが行われていることを評価したい。

(2) 望ましい食習慣を形成する学校給食について

望ましい食習慣を形成するために、栄養教諭による各学校を巡回した食育指導が行われている。こうした食育指導を通じて、食べることの大切さを児童・生徒に伝えることは、望ましい食習慣を形成するうえで有効な取り組みであり、今後とも続けていただきたい。

(3) 食物アレルギー対応給食について

食物アレルギーを持つ子供達に対して、学校及び保護者と連携し一人ひとりの健康状態や個人差を把握した適切な食物アレルギー対応食が実施されている。また、ガイドラインに基づき学校とのアレルギー対応が一本化されている。

(4) 安全な給食の提供について

安全な給食を提供するために、全調理員に対し衛生研修会を実施し、食中毒と感染症の特徴や衛生管理基準、健康管理、手洗い方法等調理従事者としての衛生管理の基本的事項を理解させている事は大変重要な事である。また、食品及び調理場内の衛生管理を徹底するために、食品検査、水質検査、消毒、清掃、鼠・害虫の防除が計画的に実施され、いずれも基準値を満たしている。

なお、現在の学校給食センターの調理場は、昔ながらのウェットシステムで老朽化も著しいことから、施設設備の改修・更新が必要であり、平成30年度から31年度にかけて新たな学校給食センターの建設が進められている。新たな学校給食センターの施設整備計画では、学校給食における衛生管理の徹底を図るため、食品の検収・保管、調理・配送及び衛生管理体制などの重要事項について示した「学校給食衛生管理基準」を学校給食センター整備の重要なポイントと捉え、衛生管理面に十分配慮したドライシステムに対応した整備が進められていることを評価したい。

(5) 給食を通じての学校・家庭及び地域との連携について

給食を通じての学校・家庭及び地域との連携を図る取り組みとして、給食試食会やふれ合い給食の実施、給食献立表・給食だよりの発行、ホームページを通しての食育の情報提供等素晴らしい取り組みが行われている。また、運営委員会や給食担当者会を開催して運営上の問題点や学校、保護者からの要望、反省点等について意見交換して改善に努められている。

[総評]

平成29年度に実施された教育委員会関係、学校教育関係、学校給食センター関係の各分野における事務事業の実施内容と成果や反省点についての説明を受け、評価項目ごとの評価結果等を踏まえて評価委員としての意見をまとめた。各点検項目についての達成目標が設定されており、常に活動状況を把握しながら問題点を洗い出し改善に向けた取り組みがなされていることを評価したい。

事務事業の改善にあたっては、短期間でできるものと長い時間かかるものがあると思われるが、今回の自己評価及び成果と反省点・課題等を踏まえ、今後に残されている課題への取り組みが計画的に推進され、着実な成果が得られる事を期待したい。

